

研究課題名: t(8;21)急性骨髄性白血病の発症メカニズムの解析

平成 30 年 3 月 20 日

【はじめに】

急性骨髄性白血病の治癒のためには、抗癌剤や造血幹細胞移植等によって、白血病細胞を完全に体内から除く必要があります。近年の詳細な遺伝子解析によって、急性骨髄性白血病といっても多くの種類があることがわかりました。今後は更に種類別の治療法が行われて、副作用が少なく効果が向上する治療が期待されます。

この研究では、急性骨髄性白血病のなかで最も頻度の高い染色体転座である、t(8;21)急性骨髄性白血病を対象として、t(8;21)急性骨髄性白血病で生じるAML1-MTG8というキメラ遺伝子が、どのようにして白血病をひきおこすのか、という研究を行います。詳細な発症メカニズムが明らかになれば、新たな治療法や検査の開発につながると考えております。

なおこの研究は、東京大学医科学研究所倫理委員会の承認を得て研究機関の長の許可を受けて実施されます。

【対象となる患者様とご協力いただきたいこと】

東京大学医科学研究所附属病院において1998年2月以降にt(8;21)染色体転座をもつ急性骨髄性白血病と診断を受け、検査目的で末梢血もしくは骨髄液を採取し、検査後の残りが保管されている方を対象としています。

ご協力いただきたいことは、その試料（末梢血もしくは骨髄液）、及び、診療情報（年齢、性別、疾患名、血液細胞数、診療において同時に検査した遺伝子検査結果）を本研究に使わせていただくことです。

【研究期間】

2018年3月20日（所長・病院長許可日）～2022年3月31日

【個人情報保護の方法】

試料（末梢血もしくは骨髄液）や診療情報を使わせていただくにあたっては、直接患者様を識別できないような登録番号を用いて匿名化を行います。登録番号と個人情報の対応関係を記した表（対照表）は細胞療法分野の鍵のかかる保管庫にて厳重に管理します。

【研究成果の公表について】

研究成果が学術目的のために論文や学会で公表されることがありますが、その場合も、患者様の個人情報は厳重に守られますので、第三者に患者様の個人情報が

明らかになることはありません。なお、他の研究者による研究成果の検証可能性を確保するために、東京大学医科学研究所では「東京大学医科学研究所生命科学系研究データ保存のガイドライン」を策定しております。これに基づき、発表後も試料や情報を東京大学医科学研究所に長期間保存させていただくことをご了承ください。

【問い合わせ窓口】

この研究についての質問やご自身又はご家族の試料や情報が本研究に用いられているかどうかをお知りになりたい場合、あるいは、本研究への試料や情報の使用について辞退されたい場合、下記の窓口までお問い合わせ下さい。また、本研究について詳しくお知りになりたい場合には、研究計画書などの資料をご覧いただけますので（ただし、他の対象者などの個人情報や知的財産の保護などに支障がない範囲内で）、下記の窓口までご連絡ください。

東京大学医科学研究所附属病院
先端医療研究センター
細胞療法分野
福山朋房
〒108-8639
東京都港区白金台4-6-1
TEL:03-5449-5632
E-mail: tfukuyam@ims.u-tokyo.ac.jp